

遊水池上部空間を利用した小型商業モールを建設

洗練されたライフスタイルを持つ「プレシニア世代」をターゲットに

東京急行電鉄株式会社

東京急行電鉄（本社：東京都渋谷区、社長：上條清文）は、2003年4月4日、横浜市青葉区あざみ野において小型商業モール「悠・粋・知 三規庭（ゆう・すい・ち みきてい）」（仮称）の建設工事に着手しました。

「悠・粋・知 三規庭」（仮称）は、横浜市青葉区あざみ野二丁目30番に所在する当社所有地6,720㎡に、鉄骨造2階建て3棟、売場面積3,120㎡の建物を建設し、飲食店舗を中心に物販、サービス合わせて23店舗で構成する小型商業モールです。

今回の計画は、現在、遊水池として利用している土地の上部空間を利用して行うもので、遊水池の機能を残しながら、人工地盤を構築し、その上部に商業施設を建設します。工期は約1年で、開業は2004年春を予定しています。

「悠・粋・知 三規庭」（仮称）のメインターゲットは、多摩田園都市にお住まいの50歳代を中心としたいいわゆる「プレシニア」世代で、20歳代後半から30歳代を対象とした近隣商圏（たまプラーザ、青葉台、港北ニュータウンなど）と差別化を図っています。

経済的にも時間的にもゆとりがあり、洗練されたライフスタイルを持つ「プレシニア」世代のニーズに応えられるように、店舗については、知的好奇心を満たすとともに、心からくつろぎ、ゆったりとした時間を過ごしていただけるテナントを誘致し、施設については、外壁面や建物内の通路を木調ルーバー（縦格子）で覆うとともに、中庭には竹や築山（つきやま）などを配し、上質で和める箱庭的空間を演出し、「大人のサロン」的な役割を担いたいと考えています。

「三規庭」のネーミングは、茶の湯を茶道として大成した千利休が茶の心を込めた「四規」の精神を受けたもので、「モダンな和」というコンセプトのもと、「悠」「粋」「知」の3つのテーマによりお客さまをおもてなしするという気持ちを込めており、あざみ野の街の魅力を高める施設となることを目指しています。

店舗構成は、飲食系店舗が約5割、物販系店舗約3割、サービス系店舗を約2割（面積割合）とし、テナントとして、秋田比内地鶏料理の「江戸の隠家 今井屋花月」、大かまどで炊いたこだわりのごはんを提供する「大かまど飯 寅福」、中国茶カフェの「TEA MAGIC」などが出店を予定しています。

「悠・粋・知 三規庭」（仮称）の概要は次の通りです。

「悠・粹・知 三規庭」(仮称)の概要

所在地	横浜市青葉区あざみ野二丁目30番
交通	東急田園都市線あざみ野駅 徒歩9分
敷地面積	6,720 m ²
延床面積	3,880 m ²
売場面積	3,120 m ²
建物概要	鉄骨造2階建て 3棟
店舗数	23(予定)
全館休業日	1月1日(その他の休業日は店舗毎に設定)
営業時間	8:00~23:00内で店舗毎に設定
駐車場	約140台(敷地外駐車場を含む)
来場者数	80万人(初年度予想)
年商	23億円(初年度予想)
着工	2003年4月4日
開業	2004年春(予定)

以 上